



おとなりさん Vol.51

歌で震災復興を願う 相馬市の避難所で慰問ライブも

サンプラザ中野くん (流山育ち、50歳)

“地震が来たら火を消そう だけど心の灯は消すな・・・”というフレーズで始まる「TOMOSHIBIー地震が来たらー」。今年のキャッチコピーは「歌うパワースポット」というサンプラザ中野くんが、東日本大震災の発生した2日後に作った曲だ。

「歌手として歌で被災者とつながりたい。歌は、時代を共有するツールになる。世界中の人に震災のことを思っていていただくことが、この曲の使命」と語るサンプラザさん。なるべく多くの人に広めたいとのことから完全無料で配布し、複製も可能。レコーディングに協力した向谷倶楽部のホームページなどからダウンロードできる。

5月1日には、流山市の姉妹都市・相馬市の避難所を訪問して慰問ライブも行った。流山を良くしていこうというツイッターユーザーが集まった「チーム流山」(松本代表)の発案によるもので、2カ所の避難所で行われたライブでは、「TOMOSHIBIー地震が来たらー」をはじめ、爆風スランプ時代のヒット曲「RUNNER」や「大きな玉ねぎの下で～はるかなる想い～」などを熱唱。避難生活を送られている方々に、勇気と希望を与えた。

小学3年生から20代半ばまで流山市で過ごしたサンプラザさんは、八木南小、南部中出身。「小学生のころはザリガニを釣ったり木登りをして遊んでた。中学時代はバレエ部にいたけど弱かったな～」と当時を振り返り白い歯を見せた。今でも、パーソナリティを務めるラジオ番組などで、事有るごとに「流山育ち」について触れてくれる。

平成11年に、ゲストの地元を訪れるテレビ番組「ウチくる!?!」に出演の際には、オリジナル曲「流山マイラブ」を作り披露した。流山ロードレース大会にも平成15年から5年連続で出場。平成20年の成人式にもゲスト出演、新成人を激励してくれた。



相馬市の避難所で慰問ライブを行うサンプラザ中野くん

まだ、実現していないのが流山でのライブコンサート。「機会があれば流山でライブしますよ。その時は流山マイラブを市民の皆さんの前で歌います」。ファンと市民に誓った言葉として紹介する。

下りの貨車は常磐炭鉱の石炭。アルコールの原料の俵詰めされた干甘藷、糖蜜はタンク車で到着。秋から年末までは、駅構内は貨車でいっぱいだった。貨車を連結するガチャンという音まで聞こえて

きた。車票に駅名を手書きして、北は根室、稚内へ。南は鹿児島、高知へ向かいました。一升びん10本を透かし箱詰めにして、有蓋貨車で発送しておりました」と、活気あふった時代を語る。



「流鉄な花号」画・鈴木心平

流鉄は、軽便時代から数えて95年という歴史を持つ。町民鉄道と言われた創業当時立ちは返って、ミニ電鉄らしいサービスを心がけて乗客増をはかっている。

二電鉄だけに、親しみも持たれているのだ。流山駅ホームの椅子には、ちよこんと座布団が載っていて、これは地元の老人クラブと社会を明るくする会柏支部の奉仕、ぬくもりが感じられる。

Nagareyama 森のマルシェ



「森のマルシェ」を、今年も6月から12月まで第3土曜(8月は未定)に行います。無農薬・無化学肥料栽培の野菜や、厳選された素材で丁寧に作られた食や雑貨が集まる楽しいっぱいのイベントです。

今年は、毎回テーマを決めて開催し、より充実した内容で来場者に楽しんでいただきます。6月は、初夏にぴったりの「さわやかなドリンク特集」です。

当日は、さまざまな種類の41店が、それぞれのこだわりを持って出店します。どうぞ、ご来場いただき本物のこだわりを堪能してください。

日時：6月18日(土)9時30分～14時30分

場所：流山おおたかの森駅南口都市広場

※市のPRサイト「CUTECUTE」に出店者情報などを掲載しています。ぜひご覧ください。

☎マーケティング課 ☎7150-6308



☎ケータイからアクセス

協働フォーラム「NPOがまちを変える!?!」 市民団体と行政との討論会

流山市・我孫子市・柏市・松戸市の市民活動に携わる方や、行政職員が、NPOや市民団体がどのようにまちづくりに関わっていくのかを討論します。

日時：6月25日(土)16時30分～19時30分

場所：平和台福祉会館

参加費：500円(資料代)

申し込み：ファクスまたはメールでまちネット流山・恵良へ (FAX) 7154-6788 / yera@nifty.com

☎コミュニティ課 ☎7150-6076

幼児期の子育て講座 ～らく楽子育て～

育児真っ最中のママたちのために、命の誕生を支えている助産師さんならではの、子育てが楽になるヒントがたくさん聞ける全3回の講座を開催します。

▷場所=文化会館 ▷対象=2～4歳頃の子どもを育児中の母親 ▷定員=20人(先着順) ▷参加費=無料 ▷申し込み=電話で文化会館へ※2歳～未就学時の一時保育あり(要申し込み) ☎文化会館 ☎7158-3462

日時	内容
7月3日(日) 10時～12時	子どもに伝えるいのちのはなし
7月10日(日) 10時～12時	完璧な親なんていない
7月17日(日) 10時30分～12時	親子一緒に語りの世界

聞き書き 流山本町界隈 ③ がんばれミニ電鉄、流鉄 青木更吉

流鉄は営業距離5.7キロのミニ電鉄である。それよりミニは成田の芝山鉄道2.2キロだが、京成線と相互乗り入れをしている。次が和歌山県の紀州鉄道2.7キロで、ここはバスに替わって鉄道が短くなってきた。これに対して流鉄は創業当時から変わらない営業距離である。さて、流鉄には入社50年になる山中定雄さん(常務取締役71歳)がいる。父親も流鉄の機関士だったから、流鉄との関わりは深い。山中さんが入社したのは昭和30年である。その頃の流鉄は、貨物輸送が多かった。貨車が15台も連ねて走る光景も見られたという。流山の産業が繁栄を誇った時代で、キッコーマンも東邦酒類も流鉄の引き込み線を持っていて、貨車で製品を出荷していた。

きそうである。それ以後は徐々に貨物は減り、東京へ通勤通学する客が増えてきた。経営は順調だったが、突然につくばエクスプレス問題が浮上し、TXの開通(平成17年)は、流鉄にとっては創業以来の大難事だった。「乗客減の対策として不採算のタクシー営業を平成14年に廃止し、現在は2両編成のワンマン運転に代替え中。5月15日には3両のサヨナラ運転を行いました」と山中さんは頭をかかえる。が、何とかこの危機を乗り越えてほしい、と願う流鉄ファンは多い。ミニ